

東京大学先端科学技術研究センターとの共同研究「ENEOSラボ」の設置について ～低炭素社会の構築に向けて～

記者各位

当社(社長:西尾 進路)は、東京大学先端科学技術研究センター(以下「先端研」と)の包括的組織連携を強化し、超高効率太陽電池並びに蓄電等の新エネルギー技術に関する共同研究を開始しましたのでお知らせいたします。

先端研とは2005年10月から、「エネルギーと環境が調和した社会の実現」をテーマに包括的な組織連携活動を行ってきております。具体的な成果として、次世代有機系太陽電池、高出力二次電池用材料、バイオマス可溶化機能性高分子等の分野で共同研究を実施、特任准教授の派遣を含む多様な人材交流、等を実施してきております。

一方、日本政府が提唱する「クールアース50」2050年の温室効果ガス半減に向けて、低炭素社会転換への期待が高まるなか、太陽光発電はその一翼を担うものとして、発電効率40%・コスト火力発電並みを目標とした超高効率太陽電池の技術革新が求められております。当社では、従来から太陽光発電システムとそれに必要な蓄電材料の研究を進めてきており、2008年4月からはシリコン型太陽光発電システムの販売の準備も開始しております。

今般、この研究開発体制を更に強化し、低炭素社会の構築を目指して、超高効率太陽電池を中心とする革新的エネルギー技術の研究に、先端研と共同で取組むこととなりました。先端研には、複数の当社研究員が常駐して共同研究を行う「ENEOSラボ」を設置し、「学」と「民」の知の交流により研究を加速、新エネルギー事業への展開と持続的発展を図ってまいります。

当社は、エネルギーと環境が調和した社会の実現に貢献する総合エネルギー企業として、エネルギーの技術革新に取り組んでまいります

記

1.共同研究の概要

- (1)内容:超高効率太陽電池、蓄電技術等
- (2)開始時期:2008年4月
- (3)体制:先端研内に共同研究のための「ENEOSラボ」を設置、当社研究員常駐

2. 先端研の概要

- (1)所在地:東京都目黒区駒場4-6-1
- (2)設立:1987年5月
- (3)所長:宮野健次郎教授(研究分野 フォトニクス材料)
- (4)研究体制:教授25名、准教授13名、講師5名、助教等17名
- (5)設置目的:先端研は、学術の進展と社会の変化から生じる新たな課題へ機動的に挑戦し、人間と社会に向かう科学技術の新領域を開拓することによって、科学技術の発展に貢献する。

以上

 [先端研との今後の共同研究テーマおよびこれまでの研究成果\(111.4KB\)](#)